

時の流れ

大阪府 藤原 栄 暢

平和でありますように、平穩でありますように、誰もが皆思い願うところです。災害は戦争でなくとも地震・暴風雨・水害等天災害もまた忘れたころにやってくる。戦争では国民等しくそれぞれ犠牲被害を受けました。戦争が好きでなくても戦い続けなければならぬ時代があつた事を忘れてはならない。凄絶・勇猛果敢、戦史を懐かしんだり戦争を賛美するものではない。尊い犠牲の教訓を振り返る姿勢は大切です。戦争は決して公平かつ共通なルールに従い行われる国際競技会ではない。各国にはそれぞれの正義があり、主張、国策がある。宗教、民族、経済、それが衝突するのが戦争で、非戦闘員である一般市民も一瞬にして生命を奪われたのです。破壊、殺人、残虐、処刑、死闘、悲惨、勝つか負けるか、常識など存在しない。国

際法も条約も法規すべて無視される。勝てば官軍正義となる。勝者の利益のために都合の良い理由をつけ正当化し、敗者の言い分は通らない。

ロシアとは当時、平和条約、日ソ中立条約を締結しておりましたので油断しており、まさか突如の侵略に司令部狼狽あわてふためき、うろたえて、満州の一般邦人、婦女子、開拓団員は一朝にして地獄へと突き落とされた。

日本兵、ロシアの港から日本へ帰す「ダモイ」と欺かれてシベリア収容所へ強制連行、自国の戦後復興に苛酷なノルマを強制し、酷使された。酷寒の追い打ち、凍傷にならぬよう生命を守るのに精いっぱいでした。零下五〇度では寒いというより身体がチカチカする。目をパチパチと絶えず動かさないと呼吸の鼻息でまつ毛が凍り付いて目が見えなくなるのです。小便をするにも大忙し。防寒外套を外し手袋も脱がなければ先が出難い。終了後も早く収めなければ童真が凍傷になるのです。今のようにチャックではない。ボタンがうまく締

まらない。そんな中でも今日は暖かいなーと、零下三〇度である。零下二〇度も五〇度の時も着たきり雀、着替えなし。半きれの黒パンに極限状態。残酷な日々。亡くなる戦友、今朝隣の戦友も倒れる、生き残るも悲惨な運命。一步の差異がほんの偶然、今日も生きられた。

収容所の裸電球十ワットは薄暗く、時々ついたり消えたりする。

戦後六十年、死の淵から振り返り、生命の尊さと儚さ、人生のゴール終着駅に現在を考え未来を思う。

島本町役場電気室嘱託勤務
航空兵二年、シベリア収容所バイカル湖周辺三年

私のソ連抑留について

鳥取県 生田 豊

さて私の軍歴は、日野町出身で大正十五（一九二六）年生れ、丁度八十一歳でございます。十六歳で渡満開拓青少年義勇軍として満州に渡満し、三年間の訓練を終了して義勇隊開拓団に入植して一年、昭和二十年一月チチハル市の在満日本人小学校において一年繰り上げの徴兵検査を受けて甲種合格となり、二十年五月十六日ソ満国境に近いハイラル関東軍五五八部隊に現役初年兵として入隊しました。

入隊して三カ月の八月九日朝八時ごろ、ハイラル爆撃というソ連参戦により日ソの戦争状態に入ったわけであります。そして一週間、八月十八日早朝、部隊陣地より師団本部に派遣されていた連絡将校が白旗を掲げて部隊陣地に帰隊して日本の降伏を伝えられたのです。まさかの敗戦の報に